

腰越城跡(比企郡小川町)

こしごえじょうあと

小川町総合福祉センター「パトリアおがわ」の駐車場に腰越城跡の案内板があった



これは腰越城跡のある丘陵の模型



和紙のふるさと小川町へ

ようこそ

埼玉県指定史跡 腰越城跡へ

埼玉県指定史跡腰越城跡は、河川に三方を囲まれた天然の要害に築かれた戦国時代の典型的な山城です。標高二一六メートルを誇る腰越からは、東に小川盆地や比企丘陵の山々、西に赤山・笠山や赤戸窪方面を見渡すことができます。すばらしい眺望が得られています。城跡は、山頂の本郭を中心に二の郭・西の郭・東の郭が得られています。城跡の移転を妨ぐ整備がなされておらず、特に、茶臼子の標呼ばれる巧みな作り手の小石などの特徴的な遺構が良好に残されています。また、城跡には「城山」・西側山麓には城を守る人々の居住地を示す「腰越塚」・南東側山麓には城への入口を示す「腰越戸」などの地名が残り、往時の面影を偲びます。

小川町教育委員会



腰越城跡は、河川に三方を囲まれた天然の要害に築かれた戦国時代の典型的な山城です。標高二一六メートルを誇る腰越からは、東に小川盆地や比企丘陵の山々、西に赤山・笠山や赤戸窪方面を見渡すことができます。すばらしい眺望が得られています。城跡は、山頂の本郭を中心に二の郭・西の郭・東の郭が得られています。城跡の移転を妨ぐ整備がなされておらず、特に、茶臼子の標呼ばれる巧みな作り手の小石などの特徴的な遺構が良好に残されています。また、城跡には「城山」・西側山麓には城を守る人々の居住地を示す「腰越塚」・南東側山麓には城への入口を示す「腰越戸」などの地名が残り、往時の面影を偲びます。

腰越城跡見学案内



埼玉県指定史跡腰越城跡は、槻川に三方を囲まれた天然の要害に築かれた戦国時代の典型的な山城です。標高二一六メートルを測る本郭からは、東に小川盆地や比企丘陵の山々、西に堂平山・笠山や安戸宿方面を見渡すことができ、すばらしい眺望が開けています。城跡は、山頂の本郭を中心に二の郭・西の郭・帯郭など大小様々な郭と、堅堀・堀切などから構成されています。特に、寄せ手の横への移動を防ぐ堅堀が多用されており、「隠小口」や「圓小口」と呼ばれる巧みな作りの小口などの特徴的な遺構が良好に残されています。また、城跡には「城山」、西側山麓には城を守る人々の居住地を示す「根古屋」、南東側山麓には城への入口を思わせる「榎木戸」などの地名が残っており、往時の面影を偲ばせます。

小川町教育委員会

正面が腰越城跡のある丘陵



ここは海拔107メートル



腰越城跡への案内板が立っている



ここから丘陵へ登って行く

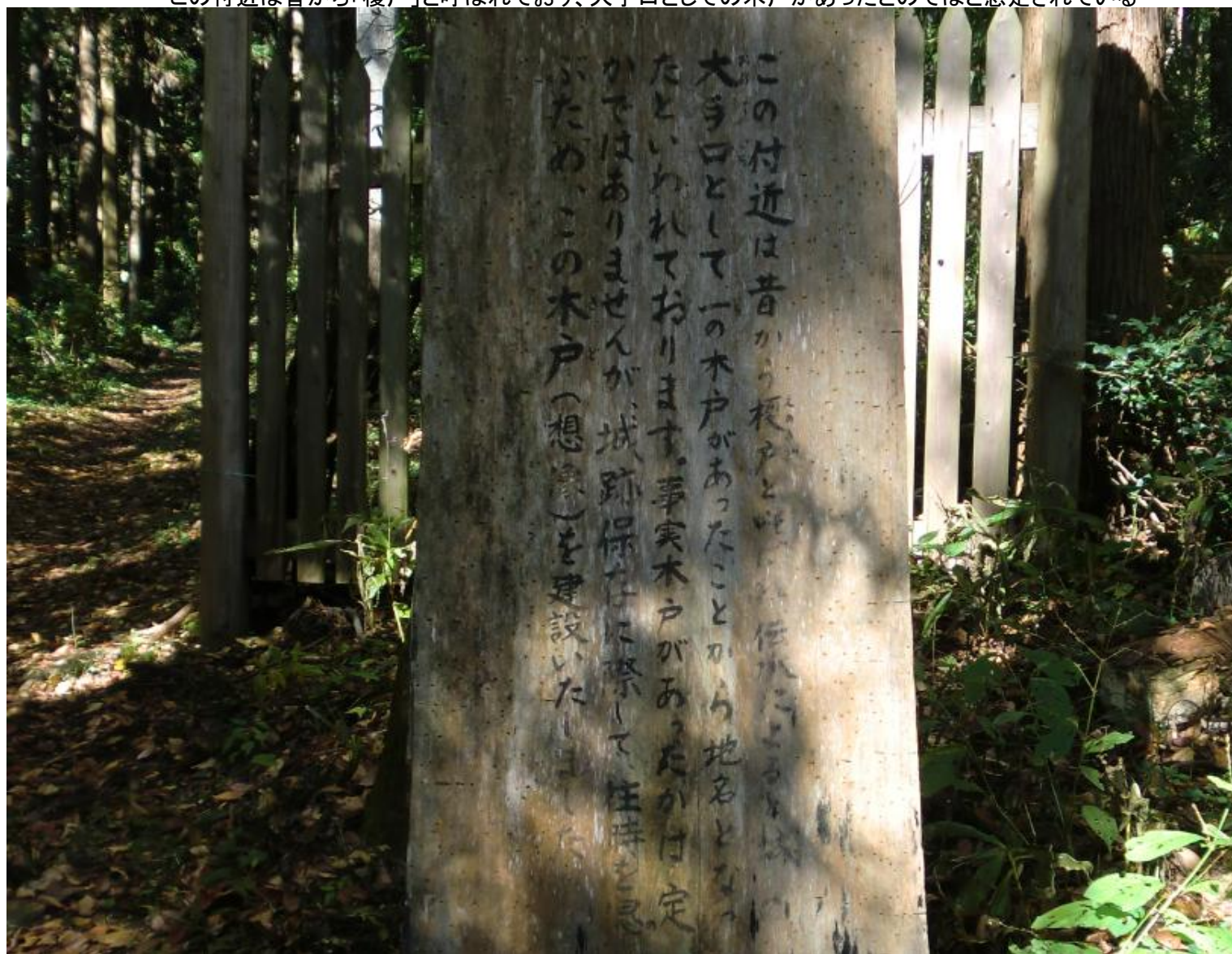




登城口に設けられた模擬木戸/右手に「腰越城跡入口」と記された表示がある



この付近は昔から「榎戸」と呼ばれており、大手口としての木戸があったとのではと想定されている



それでは腰越城跡へ進んでみよう



ここにも腰越城跡への案内板がある





杭に頂上まで300メートルと記されている





杭に頂上まで200メートルと記されている



この道は堀切となっているようだ



登り切ると案内板があった



左手方向が腰越城本郭跡との表示がある/堀切は豎堀となって反対側へ下っている



振り返って登ってきた方向の堀切を見る



ここは二重堀切のある本郭北側の鞍部であった/向こうの堀切に別の案内板が見える



右手がその案内板/左手に本郭跡へと登る階段がある



腰越城配置図が記されている



今いる現在地から南東方向へ進み、二の郭→本郭→南西方向へ進んで西の郭→北東方向へ進んで横堀・土塁部分を通って現在地に戻ろう



赤い線が遊歩道となっている



当時は大手口から来た敵は二重堀切→横堀・土塁→四小口→堀切→小口→二の郭→本郭と進む中で上からの攻撃に晒されるように図られていたと

この部分も堀切となっているようだ



堀切



振り返って見ると豎堀となつて下つている





さて、この階段を登って本郭跡へ進もう



正面の頂上が本郭と思われるが直接には登れない



左手に進むがここで道は一旦下っていく



杭に頂上まで100メートルと記されている



また案内板があった



ここを右手に曲がって二の郭方向へ進む



前方に二の郭と記された標柱が見える





振り返って見る



さて、この階段を登って進もう



左手に折れていく



すると、左手に「小口前腰郭」、右手に「小口跡」と記された古い表示があった



「小口前腰郭」の表示



「小口跡」の表示



さて、右手に折れて本郭を目指す



ようやく、本郭に到着



これが本郭/左手(西側)には土塁が設けられているようだ



本郭跡と記された石碑/この城の城主とされる山田氏の末裔が平成二年に造立したもの





説明板と「腰越城跡」と記された石碑



「県指定史跡 腰越城跡」の説明板は劣化して良く読めない



ここは海拔216メートル



非常に狭いエリアの本郭



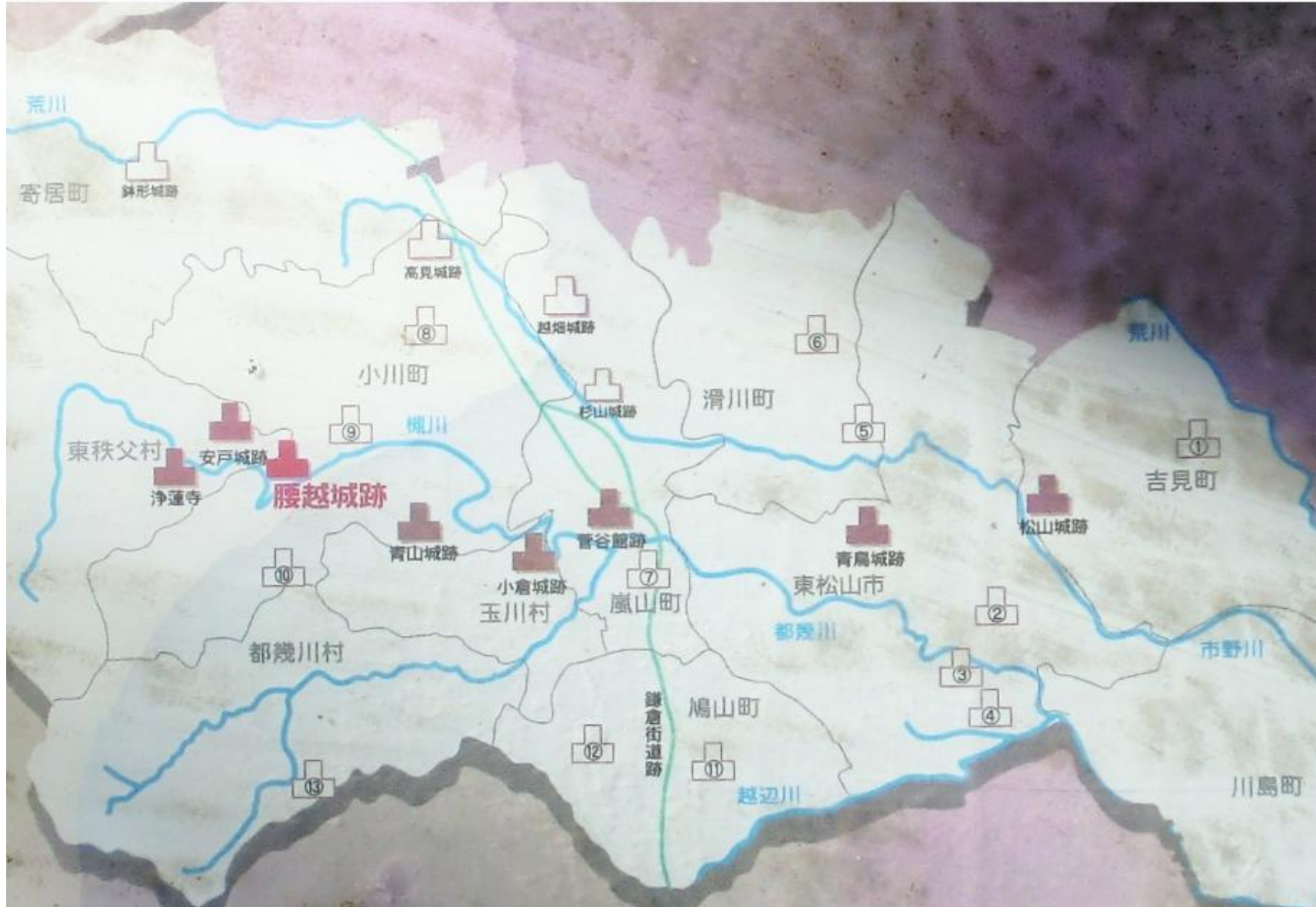
盛り沢山の説明板がある



いずれも汚れて良く見えない



その中でもこれは比企地方の城郭配置図



| 番号 | 名称 | 番号 | 名称 |
|----|-------|----|-------|
| 1 | 伝範瀬館跡 | 8 | 高谷砦跡 |
| 2 | 野本氏館跡 | 9 | 中城跡 |
| 3 | 高坂館跡 | 10 | 古寺砦跡 |
| 4 | 小代氏館跡 | 11 | 竹ノ城遺跡 |
| 5 | 羽尾城跡 | 12 | 熊井城跡 |
| 6 | 山田城跡 | 13 | 大築城跡 |
| 7 | 大蔵館跡 | | |

本郭からの眺め/南東方向に青山城跡(小川町)の方角を見る



安戸城跡

↓ 反対側、北西方向に安戸城跡(秩父郡東秩父村)の方角を見る



その右手(北東方向)を見る/槻川が大きく蛇行して三方を囲む要害となっており、城の防御性を高めている



さて、本郭から下って左手に進み小口→竪堀・堀切→西の郭へと見てみよう



アップダウンを繰り返しながら進む



「小口」の表示がある





次は「豎堀・堀切」の表示がある





豎堀



振り返って堀切を見る/ここが隠し小口と呼ばれるらしい



その堀切を登って振り返って見たところ



さて、ここに西の郭がある



これが西の郭/左手に土塁の高まりがある





さて、西の郭から東方向へ戻るようにして囷虎口→豎堀→横堀・土塁へと進もう





左手に石積状のものがある



その左手を見ると囃虎口がある



通路と見せかけて行き止まりとなる脛小口



四虎口を登って振り返って見たところ



その左手にも石積状のものがあった



さて、囿小口下から右手に豎堀→横堀・土塁→豎堀へと進む







豎堀を見る



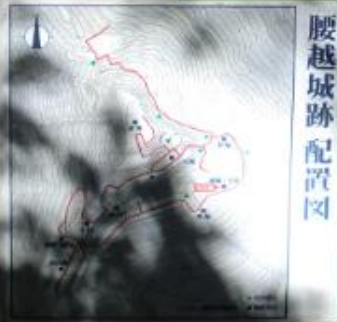
少し進むと、横堀と両側の土塁が見えてきた







土^ど 横^{よこ}
墨^{るい} 堀^{ほり}



腰越城跡配置図

振り返って見る



更に進むと豎堀の表示がある





豎堀を見る



その付近には別の竪堀も見受けられた

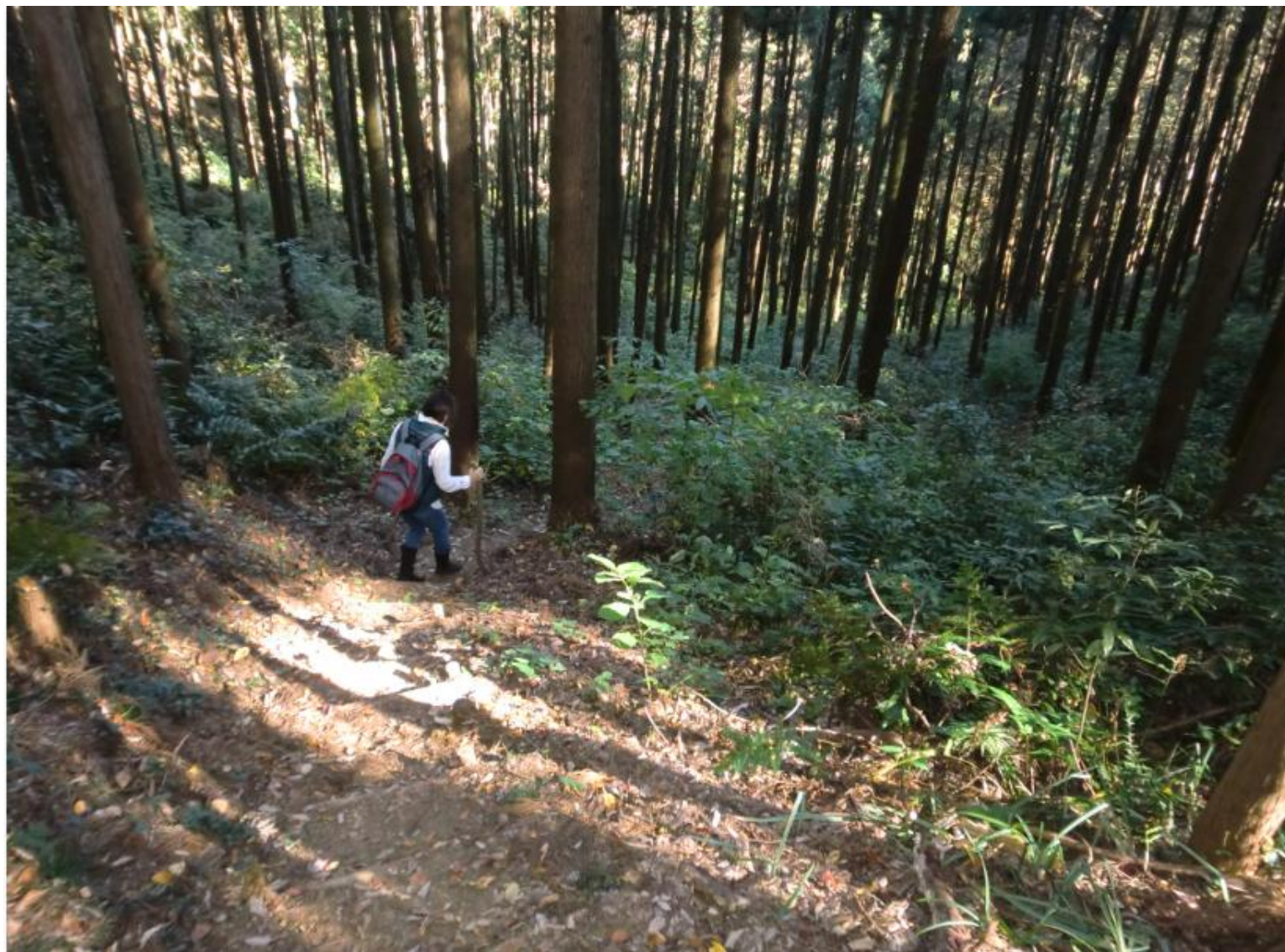


その豎堀を見る



そして、ここを右手に進んで下山することとする/左手は最初に二の郭へ向かった道





下山するのも一苦労



参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/002saitama/034koshigoe/koshigoe.html>

<http://homepage3.nifty.com/azusa/saitama/ogawasai.htm#kosigoe>

<http://www.water.sannet.ne.jp/u-takuo/kosigoezyo.htm>

http://www.f2.dion.ne.jp/~fumie.h/houioh/siro/s_ogawa.html

<http://ckk12850.exblog.jp/6077740>

<http://blogs.yahoo.co.jp/s04hi992ma/25601189.html>

<http://blogs.yahoo.co.jp/s04hi992ma/25730401.html>

<http://www.geocities.jp/sisin9monryu/saitama.ogawa.html>

http://45723082.at.webry.info/200901/article_20.html

http://www5d.biglobe.ne.jp/~hatabo/meijyou/12_Saitama/koshigoe/index.html

<http://www.hb.pei.jp/shiro/musashi/koshigoe-ijo/>

<http://outdoor.geocities.jp/yamazirotokotoko/saitama/kosigoe.html>



